



第 13 号
発行所
近畿大学農学部緑友会
広報・編集委員会
631-8505 奈良市中町3327-204
TEL: 0742 (43) 1511
http://www.nara.kindai.ac.jp/

特集
(5~8ページ)

近畿大学農学部創設50周年
記念式典・講演会・祝賀会
第6回緑友会総会

創立50周年を迎えて―
卒業生と大学は
ギブ・アンド・テイクの關係に

緑友会会長
村上哲男



卒業生の皆様方におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本会の運営に多大のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

農学部は創立50周年を迎え、5月にはシェラトン都ホテル大阪において記念式典、祝賀会が緑友会の協賛で盛大に開催されました(特集ページ掲載)。三年毎に行なっている総会も祝賀会を盛り上げるために、一年前倒して開催しましたところ、創設初期の卒業生にも多数ご参加いただきました。

50周年を迎え、農学部も飛躍の第二ステージに入っていますが、近年の社会状況の変化は大学経営にも大きな変化をもたらしています。18歳人口の減少で大学全入時代になり、大学の理念も運営も大きく揺らいでいます。最近の動きとして、日本の高等教育機関で、卒業生を組織化する動きが活発化してきています。卒業生は最もロイヤリティー

新学部長挨拶
「伝統ある農学部」の発展をめざして」

農学部長
宇都宮直樹



農学部緑友会の皆様におかれましてはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。皆様方には、平素から農学部への多大のご支援、ご鞭撻を



賜り厚くお礼申し上げます。さて、私は本年10月より農学部長を拝命いたしました。微力ではございますが農学部の発展のために全力を尽くすつもりでおりますので、皆様方のご指導、ご助言を賜りますようお願いいたします。

近年、大学では教育の重要さが力説されていますが、農学部では改組により教職員が

一体となり、社会で活躍できる人材を育成することに確かな手ごたえを感じつつあります。本年度末には平成17年度の改組後初めての卒業生を送り出す予定になっており、彼らが社会ですばらしい活躍をしてくれることを期待しています。平成18年度に文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラムとして採択された「里山修復プロジェクトを通じた環境教育の実践」が本年度で終了となります。このプロジェクトでは教職員、学生、地域の人々が一体となった実りのある環境教育が行われてきました。今後も、キャンパス内にある里山の保全に取り組み、環境教育を一層充実させていく予定です。一方、キャンパス内の一部を開墾し、そこでさまざまな作物を栽培し、それらを利用した産物を作る『ものづくり村』が開設

されました。自分の手でモノを作る教育にも取り組む予定です。研究においては、『クロマクロ等の養殖科学の国際教育研究拠点』が文部科学省COEプログラムに再度採択され、今後の研究成果が注目されています。多くの先生方が各方面において活躍され、有用な研究成果を上げられています。

学科の近況

農業生産科学科

学科長

吉田 元信



卒業生の皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。この10月から農業生産科学科の学科長を務め

動について報告させていただきます。作物資源生産学研究室の教授としてまた、学科長としてご勤務いただいた奥村俊勝先生が、この3月末でご退職になりました。長い間、本当にご苦労さまでした。奥村先生が学科を去られ、寂しい思いをしておりますが、4月から、後任に飯嶋盛雄教授が着任され、作物資源生産学研究室にも活気が戻りました。10月からは宇都宮直樹教授が学部長に就任され、農学部の新しいリーダーとして活躍していただけるものと確信しております。また、松田克礼先生は准教授から教授に、芦田馨先生は講師から准教授に昇格いたしました。したが

が、報告が最後になりましたが、農学部創立50周年記念式典および祝賀会は、皆様方のご協力により、無事盛会のうちに終了することができました。この50周年を節目として、これまで皆様方が築かれてこられた伝統を奈良のキャンパスにしっかりと根付かせて農学部をさらに発展させたいと思っております。どうか今後とも皆様方からご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

食品偽装からはじまり、メタミドホス、メラミンによる食品汚染、汚染米と今年ほど食の安全が揺さぶられた年はなかったのではないのでしょうか。安全で、安心できる農作物を生産し、そして販売、流通に対する知識を持ち、適正に農作物を市場に出せる卒業生を世の中に送り出すのが私たちの学科の使命であると考えております。今後カリキュラム変更も含め、学科の教育内容の充実を旗印として、取り組んで行く所存であります。卒業生の皆様より一層のご支援とご協力をお願い致します。

卒業生の皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。この10月から農業生産科学科の学科長を務め



水産学科

学科長

江口 充



近畿大学農学部水産学科は昭和33年に発足し、今年で50年になります。この節目の年に、本学大学院水産学専攻と水産研究所が国家プロジェクトである文科省グローバルCOE「クロマクロ等の養殖科学の国際教育研究拠点」に採択されました。これは「近大水産」がこの学問分野で世界のトップレベルにあることを示します。学部教育での進展

は、教育の外部評価としては最も厳しいJABEE(日本技術者教育認定機構)審査を農学部のなかで初めて受審することです。これは水産学科の教育レベルの充実度を示す客観的な指標であり、卒業生は従来の「農学士」に加えて「修習技術士(技術士補)」という国家資格が持てるようになります。今後とも水産学科の教育目標である「地球の視野から多面的に水域の食糧生産と環境・生物を考える能力を持った若い世代の育成」をめざし、学科一丸となって邁進いたします。卒業生の皆様におかれましては、ご支援、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。末筆になりましたが、卒業生の皆様のご健勝とますますのご活躍を祈念いたします。



2008年3月に農芸化学科の最後の卒業生が巣立ち、4月から農学部は新しい学科体制に完全移行して大学生生活がスタートしました。応用生命化学科は旧農芸化学科4研究室と旧食品栄養学科2研究室で構成され、総数537名の学生が教員15名とともに学んでいます。さて、4年間農学部長の職務を務められました駒井功一郎教授がその職務を果たされ、この10月から研究室へ戻って来られました。また、平成18年から森本正則講師が、平成19年からは白坂憲章准教授がアメリカに1年間留学され、それぞれactivityを高めて帰ってこられました。さらに、この4月からは新進気鋭の飯田彰教授が生物環境学研究室に就任され、新しい風を吹き込んでおられます。そして、近畿大学では10月に人事異動があり、応用生命化学科長も寺下隆夫教授から岸本憲明へ変わりました。微力ではありますが、皆様のご指導・ご鞭撻をいた



応用生命化学科
学科長
岸本 憲明

大きながら、応用生命化学科および農学部の発展に取り組む所存です。卒業生の皆様の益々のご発展とご健康をお祈りいたします。

食品栄養学科

学科長

渡辺 克美



卒業生の皆さまにおかれましては、ご健勝で、ご活躍のことと存じます。さて、私はこの10月、村上先生より学科長を引き継いだところで、よろしくお願い申し上げます。



環境管理学科

学科長

八丁 信正

平成17年度の農学部改組より4年目となり、改組も完成年度を迎えました。研究室の移動、再配置も行われ、この4月からは食品栄養学科(管理栄養士養成施設)として、1学年定員80名、2クラス編成で運営されております。今日の日本は言うまでもなく、高齢化社会とともに生活習慣病が大きな問題となっており、そのための、各方面における管理栄養士の活躍は大いに期待されることです。本学の卒業生の国家試験合格率は高いものであり、また、卒

来た活動内容は基本的に継承されることになると思います。同時に、農学部全体として里山計画整備が進行中であり、学科としての関わりも、その一翼を担うものになると考えます。また、里山修復以外にも、環境管理学科では国内外でのフィールドワーク(奈良県下、フィリピン、タイ、インドネシア、アフリカなど)を実施しており、今後も活発に推進していくことになりま

環境管理学科も設立以来4年目を迎え、来年の3月には、環境管理学科として1回目の卒業生を送り出すこととなります。この間、学科の活動は、平成18年4月に文部科学省に採択された現代GP(現代的教育ニーズの取組支援プログラム)の里山修復プロジェクトを中心に展開してきました。里山講座を年5回開催し、農学部の学生、地域の住民や、NPO関係者などから多くの参加を頂き、活発な活動が展開されています。特に、このプロジェクトは、学生の参画と主体的な活動が中心となるため、学内の同好会(Feeling、エコプロ、めだかの学校)や学生グループ(動植物調査を実施)等が積極的に活動に関わっております。

この文科省の支援プロジェクトは来年3月に終了しますが、今後もこれまで実施して



バイオサイエンス学科

学科長

内海 龍太郎

農学部改組から早や3年が過ぎ、来春にはバイオサイエンス学科1期生が緑友会会員として羽ばたくのをいまや遅しと待っています。バイオサ



活気ある大学院農学研究科

大学院農学研究科長

河村 幸雄



世紀に開かれた活力あるバイオサイエンス学科の完成にむけて、フロンティア精神で邁進してまいります。同窓生の皆様方におかれましては、さらなるご理解とご支援、ご指導をあらためてお願い申し上げます。

農学部緑友会の皆様におかれましては、ご健勝にてます。また、現在の農学研究科の発展は会員の皆様のため、ご支援なしには成し得なかつたと思われ、御礼申し上げます。

農学部の近況
事務長
楠 治伸

士後期課程でも第2位です。また、中規模の研究科であるにも関わらず、文部省、研究支援財団等の外部研究資金の獲得額は、学内トップであり、研究活動のポテンシャルは高いものです。

農学部緑友会会員の皆様には、日頃のご活躍とますますのご発展をお慶び申し上げます。また、近畿大学農学部の発展に多大なるご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、平成20年度の近況についてご報告させていただきます。

しかしながら、すべて良いことづくめではなく、多くの私立大学の例に漏れず、国立大学と異なり、院生と比べて学部学生の数が多く、大学院専有の教室や研究室の数、面積が十分ではありません。また、院生の経済負担のサポート体制の整備など課題も多いのも現実です。

このような中、農学研究科大学院担当教員は、高い教育と研究理念を持つて院生の教育、研究指導するため、努力と研鑽を積んでおります。多くの学部卒業生の大学院への進学と緑友会会員の皆様のご支援とご健康を賜りますことを願っております。

最後に、緑友会会員の皆様は、文部科学省「グローバルCOEプログラム」に本学のマクロ等の養殖科学国際教育研究拠点が採択されました。マクロをはじめとする世界各地で資源減少が危惧される魚

平成20年度は創設50周年を迎え、今春5月には、記念式典及び祝賀会として緑友会総会をシェラトン都ホテル大阪にて開催することができ、緑友会会員の皆様を始め多くの方々に出席いただき、お陰様をもちまして盛会に終わることができました。

また、教育面におきましては、文部科学省「グローバルCOEプログラム」に本学のマクロ等の養殖科学国際教育研究拠点が採択されました。マクロをはじめとする世界各地で資源減少が危惧される魚

最後に、緑友会会員の皆様は、文部科学省「グローバルCOEプログラム」に本学のマクロ等の養殖科学国際教育研究拠点が採択されました。マクロをはじめとする世界各地で資源減少が危惧される魚

緑友会名簿訂正(変更)届

氏名	卒業学科	年	度
所属研究室			
現住所			
勤務先			

住所等開通している、あるいは変更がある場合、この用紙を緑友会事務局までお送りください。お電話、メールでお知らせいただいても結構です。連絡先: 〒631-8505 奈良市中町3327-204 近畿大学農学部 緑友会事務局 電話 0742-43-1511(内線2030) メールアドレス ryokujim@nara.kindai.ac.jp

● **すぎのこ会総会・懇親会のお知らせ** (旧農学科 植物生理学研究室) ●

すぎのこ会の会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。さて、杉野先生は今年で80歳を迎えられ、ますますお元気で過ごされています。そこで、杉野先生の80歳(寿考)の節目を記念して、総会(懇親会)を開催することになりました。先生も会員の皆様と会えるのを楽しみにしております。下記日程で行いますので、ぜひ参加していただきますようお願い申し上げます。

記
日 時 平成21年11月11日(日)
場 所 シェラトン都ホテル(近鉄上本町下車すぐ)
総 会: 大和の間(東) 17:30~18:30
懇親会: 浪速の間(西) 18:30~20:30 (21:00)
懇親会費 10,000円(その他、記念品代2,000円と、すぎのこ会費3,000円/5年分)
同伴者については、大人(7,000円) 中学生(5,000円) 小学生以下(無料)

参加ご希望の方は、会長 中村 和幸(農学科S53年度卒)
TEL・FAX 0797-87-9934までお申し込みください。

● **ホームページ 開設しました**
近畿大学農学部ホームページ トップページ「卒業生の方」→学生生活「緑友会」

新任の挨拶

農産産科 作物資源生産学研究室
教授 飯嶋 盛雄

このたび作物資源生産学研究室に赴任してまいりました飯嶋です。私の出身は愛知県常滑市であり、これまで地元愛知県から外に出ることなく過ごしてきました。名古屋の世界から奈良の関西弁の世界にどっぷりとつかっているいろいろなカルチャーショックを楽しんでいるところです。前任地の名古屋大学時代には地元の濃尾平野の広大な空間での作物生産だけを勉強してきましたがこれからは、多様で閉じた系とも言える里山の中での作物栽培のあり方や、その麓の奈良盆地での作物生産を新たな研究対象として考えていくことができればと考えております。またナミビア国の季節性湿地帯での稲作導入プロジェクトも継続していきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

応用生命化学科 生物環境学研究室
新任 飯田 彰

この4月より緑友会の仲間入りをさせていただきます。飯田彰でございます。簡単ではございますが自己紹介をさせていただきます。京都大学大学院薬学研究所終了後、母校京都大学にて助手、助教授を務め、2006年4月には教授として高崎健康福祉大学薬学部へ赴任いたしました。一貫して薬学畑を歩んでまいりましたが、この春、御縁がございまして私立の農学部として伝統ある近畿大学農学部に移ってまいりました。クスの開発につながる生理活性化合物の探索と合成を研究の柱としております。まだまだ不慣れではございますが、皆様のご指導・鞭撻よろしくお願ひ申し上げます。

水産学 水産経済学研究室
教授 多田 稔

本年4月に水産学・水産経済学研究室に着任しました出身は徳島県、中央水産研究所や国際農林水産業研究センターでのマクロ国際資源管理や東アジア地域農林水産業の高付加価値化に向けた研究の経験、近畿大学での教育研究に生かしていきたいと考えています。前期を終了したところで、学生相手の授業など今まで経験したことのないことも多く、まだ霧の中をさまよっているという感じですが、皆様方のご鞭撻をお願いいたします。

食品栄養学 栄養機能学研究室
助教 里井 恵子

本年4月に食品栄養学・栄養機能学研究室に着任いたしました。これまで、管理栄養士養成に教員として携わりながら、自身では栄養素による生活習慣病抑制メカニズムを解明する研究を行ってまいりました。近年、年々難易度が高くなる管理栄養士国家試験の合格、且つ実践力・リーダーシップ力を有する魅力ある人材育成が学科には求められていますが、教員として私自身も学生と共に成長しながら真摯に取り組んで参りたいと思ひます。

食品栄養学 生体機能学研究室
契約助手 山下 里奈

今年4月に食品栄養学の生体機能学研究室に着任いたしました。3月に近畿大学大学院農学研究科応用生命化学専攻博士前期課程を修了し、今年からは教員として近畿大学に在籍することになりました。学生の時は食品成分の抗血栓作用について研究してまいりました。

食品栄養学 栄養機能学研究室
助教 大沼 貴之

緑友会会員の皆様、初めまして。平成20年4月からバイオサイエンス学科のバイオ分子化学研究室の助教として、



退任の挨拶

前農産産科 奥村 俊勝

会員の皆様、ますますご健勝におすごしのことと思ひます。私こと、平成19年3月末で一旦定年退職し、この1年間は農学部農産生産学学科の主任教授として勤務してきましたが、20年3月末で実質的に退職いたしました。思い返しますと、昭和39年4月に、当時の布施市（現在の東大阪市）長瀬の大学本部の15号館にあった農学部農産生産学学科の研究室に助手として就職しました。平成元年の農学部奈良に移転と平成16年の学部改組を経て、この44年間の長きに渡って農学部農産生産学学科の教員として大過なく勤めることが出来ました。これも卒業生や先輩の先生方および同僚の皆様のおかげと感謝しております。この場を借りて御礼申し上げます。あ

さて、私は学生時代においても農学部で学び、就職先も

退任の挨拶

前水産学 小野 征一郎

平成20年3月、農学部を定年退職しました。在職中皆様方へ大変お世話になりました。誠に有難うございました。とりわけ事務職員の方々には何かとご面倒をかけ、申しわけありませんでした。

現在、私は本学水産研究所の主任教授として、グローバルCOEの研究に従事しています。農学部・水産経済学研究室ならびに水産研究所のご配慮により、これまでと同じく農学部研究室を利用して頂き、従来通りの研究を続けています。改めて御礼申し上げます。

私が近畿大学に着任したのは、2001年でしたが、それからの7年間、実に快適な充実した毎日を送ることができました。研究者として締めくくりにする時期にあたり、著書1冊、編著書を4冊刊行しました。著書は近畿大学の学内研究助成金の交付をう

退任の挨拶

前食品栄養学 契約助手 久保 美帆

平成20年3月をもって契約満了により退職しました。私は病院勤務を5年経て、近畿大学農学部食品栄養学学科に着任し、実習助手として8年弱勤務しました。私が着任したときは管理栄養士専攻がで

け、たまたま授与された平成19年度水産学会功績賞はこの著書の貢献が大きかったと思ひます。編書のうち、とくにTAC制度と養殖マクロの分析は、共同研究により新しい分野の橋頭堡を築いた成果であると自負しています。

研究者として最晩年をむかえた現在、G・COEに取り組み機会を与えられました。マクロ養殖の現状分析と将来展望に確実な礎をすえ、近畿大学ならびに農学部・水産研究所のご好意にささ

なりとも寄与したいと念願しています。

退職のごあいさつ 前食品栄養学 講師 村上 恵

本年3月末をもって7年間お世話になりました近畿大学農学部を退職し、同志社女子大学に移籍いたしました。思い起こせば新任のころ、女子高・女子大出身の私は大学内に男の子がいること（当たり前なのですが）や家政学部と農学部との違いに毎日驚いていたように思ひます。私にとつて農学部は未知なる世界でしたので、様々な分野の先生方とお話できたことは人生における大切な宝物となりました。また大変お世話になりました食品栄養学学科では、村上哲男先生のもと、教育面はもちろん研究面でも今まで考えてこなかった多くのことを学び、さらに管理栄養士養成課程としてこれからどうあるべきか、といった学科の将来展望など運営面の大変さについても勉強させていただきました。7年間という短い期間ではございましたが、充実した日々を送ることができました。この場をかりまして厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、移籍に際しまして快くご承諾いただきました近畿大学および農学部にお心より感謝申し上げます。近畿大学農学部ならびに

3年目で、一期生が3年生で4年生がまだいない状態でした。それから、一期生が卒業し、二期生が卒業し、最後に七期生を見送りました。それぞれが国家試験に、就職にと頑張っている姿をみて、こちらも頑張らねばと力をもらいました。平成19年2月に結婚したこともあり、現在は専業主婦をしています。時間があつたので、フェアトレードのイベントに参加して、手作りのおにぎり弁当を販売したり、

など異なる部門の研究者や、他大学の同じような分野の研究者と意見を交わすことのできる研究会にも出席する機会があり、非常にいい経験となりました。

オレゴン州はノースウェストと称される太平洋に面した地域にあり北海道とほぼ同じ緯度に位置するため夏もさほど暑くありませんが、冬

場は毎日のように雨が降り続くことも特徴です。これらはスノーパード非常に安く手に入るため、買い物たびに毎回違うビールやワインを楽しむことが出来ました。

滞在中訪れた場所にて印象に残ったのはオレゴン州南部にあるクレターレイク国立公園でした。クレターレイクは火山の噴火によって出来たカルデラ湖で、全米で最も深く透明度の高い湖です。その神秘的な湖面の青さはこれまで体験したことのないくらい印象的でした。夏の期間が短いこともあり、多くを見ることは出来ませんでした。が、雄大なアメリカの自然の一端を体験できたことは非常にいい経験だったと感じています。



クレターレイク国立公園にて



が行われておりました。私もその一員として放線菌の二次代謝産物の遺伝子解析および抗生物質の生成中間体の構造解析の実験を行いました。滞在中には同じオレゴン州立大学でも農学生命や食品科学

新入生の夢

私の夢

農業生産科学科一年

北村 武也

大学生活がはじまってはや4ヶ月あまり、日々生物や社会、自然などの色々なことについて学んでいます。そんな僕の夢は日々自分が感じたことを大切にする人になることです。大学の授業やサークルの活動でも色々なことを感じました。たとえば遺伝子組み換え食品についてです。遺伝子組み換えの説明を授業で受けました。遺伝子組み換えについては知っているつもりだったのですが、説明を受けた後には自分の考えていたものと大きく違う部分があることに気付きました。しっかりと判断基準をもって物事を評価することの難しさや大切さを感じました。他にはサークル内での調査や活動で学んだことがあります。一つ目は里山での作業についてです。サークルの活動で森林ボランティアに参加したときのことです。その日は山に侵入した竹や笹を刈ることが目的だったのですが、自分は早く終わらせればいいものと思っていたのですが、これまで作業してきた地元の人たちはノルマとしてはみておらず来る範囲だけをやればいいと教えてくださいました。自分のもっていたイメージが実際に作業してきた人のイメージとは全く違うことから実際に自分が体験することの大切さを学びました。二つ目は生産者と大学教授などの専門機関につく人たちのギャップです。サークルの活動として里山学連続講座に参加したときに感じました。生産者は

績がある近畿大学に入学し、その技術や基本知識を身につけようと日々授業や大学の図書館を利用し、様々なウナギや水産に関する知識を蓄えています。

海は栄養に富み、安定した環境を多くの生物に提供し、生命は海に生まれ、現在も生命の歴史は続いております。人類や多くの生物が存在しています。しかし、人類の歴史によって環境は変化し続けています。

海や川、湖沼などで生息する水生生物やそれにかかわる生物たちはそれぞれの環境に独自に進化をとり、そしてその生物資源を私たちは利用してきました。しかし、人の活動に伴い乱獲や海洋汚染が進み、そうした海洋環境の変化もまたシラスウナギなど魚介類の漁獲量減少の原因のひとつと改め確認しました。無

新入生の夢

水産学科一年

西野 弘嵩

私は海、河川、湖沼などの生態系に興味があります。その中でも「鰻」の魅力にはとても魅かれています。きっかけはウナギの生態がすべて解明されてはいなく、ウナギは淡水で成長した後、悠々とマリアナ諸島のスルガ海山付近で産卵するという不思議なところがあるからです。またウナギのほとんどは種苗であるシラスウナギを採捕し、それを養殖して利用しています。しかし、シラスウナギのほとんどが天然のものであり、そのため採捕量が不安定で年々種苗の価格が変動しています。そこでウナギの完全飼育は関係者に期待されているようで、それならばウナギの人工種苗生産をしようと思立ちました。そして、マグロ養殖を長い年月をかけて成功させた実

題などの様々な問題が起きている、今のこの状況を少しでも改善するために、自分にも出来ることは何かを考えるには農学部で勉強することが一番良いのではないかと考えたからです。そして、その農学部の中でも応用生命化学科を選んだのは、特定の分野だけでなく、農学の様々な分野を広く学ぶことができ、将来自分が進みたいと思える分野を見つけてことができると考えたからです。

私は環境問題などに興味があります。一口に環境問題といっても、地球温暖化や異常気象、水質・大気汚染、食糧難などのように様々な問題があります。これらの問題は、日々、メディアなども報道していますが、もう少し詳しく現状や原因、対策について大学の授業を通して、さらに知識を深めたいと思っています。また、このような地球規模の問題をマクロな視点だけでなく、化学や生化学といったミクロな視点でも解析する必要があります。そのため、応用生命化学科で学ぶことは大変役に立つと思います。

また、近年「食」が良い意味でも悪い意味でも注目されています。飽食と飢餓という相反する問題に対して、食の栄養性・機能性として安全性など、食に関する研究は大切であるといえます。さらに、おいしい食べ物やお酒など、生活を豊かにしてくれる食品のことについても興味があるので、この分野についても、もっと深く大学で学びたいと思っています。

新入生のゆめ

応用生命化学科一年

前田 茜

私はこの春、近畿大学農学部に応用生命化学科に入学しました。

私が農学部を選んだのは、日本を含めて世界中で食糧不足や環境破壊、エネルギー問

いえば受身的だったもので、時間があれば、インターンシップや地域の活動などのように大学生である今しか出来ない学業以外のことを積極的にチャレンジすること、また何事にも意欲的に取り組むということも私の大学在学中の目標です。

今の段階では、将来どのような職種、会社に就職したいということは、まだはっきりとは決めていません。現時点では興味がある環境系か、食品系の仕事に就きたいと考えていますが、抗がん剤の話を生命科学基礎の授業で聞いて、最近製薬などの仕事にも興味を持つています。いずれにしても、人の役に立つことができるような仕事をしたいと考えています。そして、社会に出たときに、責任をもって自分から行動できる人間になれるように、また精神的にも成長できるように、これから大学生活を充実させていきたいと思っています。

僕たちは、外国から日本に輸入されてくる食品の安全性などを検査する職に就くことを目指しています。僕らの口に入る食品が、どこでどのように作られたのか？を知ることは、とても大切なことであり、食べるときは一生切り離せないこと、他人任せにしてはいけないと思います。だから大学では、栄養学のみならずたくさんの知識を身につけ、夢に向かって前進していきたいと思っています。

僕の夢

食品栄養学科一年

秋定 兼太

僕らの口に入る食品が、どこでどのように作られたのか？を知ることは、とても大切なことであり、食べるときは一生切り離せないこと、他人任せにしてはいけないと思います。だから大学では、栄養学のみならずたくさんの知識を身につけ、夢に向かって前進していきたいと思っています。



緑友会主催 近畿大学食品栄養学科 新入生歓迎会(A) 平成20年4月10日 近畿大学

僕は小さい頃、神戸にある六甲アイランドという所に住んでいました。そこでは毎日のように各国からの大型貨物船が行き来し、たくさんの量の積み荷を降ろしていました。あの大きなコンテナの中には何が入っているのだろうか？どこの国から来たのだろうか？とずっと思っていました。その時以来、外国からの輸入品に対する興味が湧いてきたのだと思います。特に食品に関しての興味が強く、これらの輸入食品はどのような流通経路をたどって自分たちの口に入ることになるのか？農薬などの安全性は大丈夫なのか？ということを考えるようになりました。

現在、日本の食料自給率は極めて低く、外国からの輸入に頼らなければならぬのが現状です。しかし、日本人の外国からの輸入食品に対する問題意識はとて低く、牛肉偽装問題・冷凍食品などの残留農薬の安全性が問われだした最近になって、ようやく、意識し始めました。

自分の口に入る食品が、どこでどのように作られたのか？を知ることは、とても大切なことであり、食べるときは一生切り離せないこと、他人任せにしてはいけないと思います。だから大学では、栄養学のみならずたくさんの知識を身につけ、夢に向かって前進していきたいと思っています。

私の夢

環境管理学科一年

木村 亮太

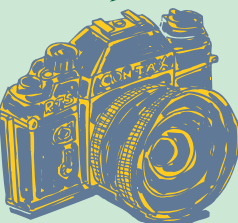
僕がこの環境管理学科に入ろうと思ったのは高校2年の時でした。友達どうして何気なく選択した生物の授業である先生に出会いました。その先生は、授業で学ぶことも大切だけど、実際にいろいろな

所へ出かけて行って生物とふれ合う方が楽しいし、勉強になるというタイプの先生でした。僕はそれまでフィールドワークというものを知らなかったが、その先生が多くの山や川、海へ連れて行ってくれたおかげで、いろいろな生物に触れ合うばかりでなく、さまざまな人々にもめぐり合いました。世の中にはほんとにさまざまな生物、人、そして多くの可能性が秘められていくんだなと感じました。生物との出会いや可能性の実現には、自分が受動的になっていくだけでは出来ないものでした。

入学してもう数ヶ月が経過しましたが、自分では想像もつかないような考えを持ってもらえる先生方や、研究のため危険を顧みずヘビやスズメバチを捕まえたりする人まで、様々な人に出会いました。これから4年間ほんとに多くの事を学びたいと思っています。僕にはまだはっきりとした夢といえるものを持っていません。でも、まだ誰も発見していないような事を、難しい事だとは思いますが、是非発見してみたいです。そして大学生活を通じて、より自分の知識、人生観を深めていきたいと思っています。環境管理学科はそんな自分の考えを叶えるのにまさにぴったりの学科だと私は思っています。

「俺には夢がある 両手じゃ抱えきれない 俺には夢がある ドキドキするような」

なんて歌があります。ブルーハーツの「夢」という曲です。みなさんには、ドキドキするような夢はありますか？どんなささいな事でも。



あなたの企業のお手伝い
photo shop

イナダカメラ

21世紀へ
ニューメディア
プリント

服部川店 八尾市服部川7丁目56
TEL 0729 (41) 0909 / FAX 0729 (41) 0934
携帯 09037290909
今里店 大阪市東成区大今里4丁目21-18
TEL / FAX 06 (6974) 0919
代表者 稲田 忠明 (農学科 昭和43年度卒)



城崎 マリンワールド
http://marineworld.hiway-yama.co.jp

私はアフリカに行つて、本物のライオンに会うことです。小さいですか？多分すぐになえようと思えばかかいますね。でもこれが私を動かす原動力の一つです。

さて、ここで夢を見つけるヒントを紹介します。

「十年後の日本はどうなっているでしょうか？そしてその頃の自分は何をしていますか？」

はい、イメージしてください。出来ましたか？

では次に、

「十年後の未来はどうなっているでしょうか？自分はどんなことをしていますか？」

理想や明るい未来が見えにくい世の中ですね。ですが、想像することは止めないでください。どんな夢も、あなたの中にヒントがあるので見つけてみてください。私は夢を叶えて夢を分け与える人になりたいです。これが私の夢です。

近畿大学農学部 創設50周年記念特集

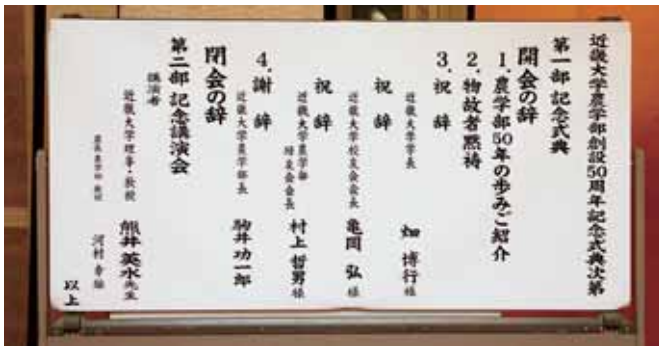
記念式典

近畿大学農学部は1948年（昭和23年）に設置の臨海研究所と1952年（昭和27年）設置の農芸化学研究所を母体に、1958年（昭和33年）に農学科と水産学科の2学科でスタートした。そして、今年（平成20年）に創設50周年の記念すべき節目の年を迎えた。現在、農学部は6学科に増設され、大学院の博士課程も備えた学生総数約3000人の充実した学部で発展した。

創設50周年記念祝賀会は今年の5月25日（日）、「シエラトン都ホテル大阪」を会場に多数のご来賓、卒業生をお迎えして盛大に開催された。この祝賀行事は駒井功一郎農学部長を中心に、現在在職中の教員および職員が約1年半前から、記念式典、記念講演会、記念誌の発行、祝賀パーティーの4大事業について準備を進めてきた。とくに、農学部の同窓会組織である緑友会から人的・資金的援助を

いただいたおかげで盛大に開催することが出来たもので、ご援助頂いた近畿大学本部とともに、ここに厚くお礼申し上げたい。

当日の祝賀記念式典は緑友会総会に引き続いて、午後3時から近畿大学畑 博行学長、近畿大学校友会亀岡 弘会長、村上緑友会会長、多数の卒業生をはじめ、約250名のご来賓をお迎えし、厳粛な雰囲気の中に進められた。まず、司会をつとめさせていただいた私が農学部発展の歴史とこの間に農学部で勤務され、その後お亡くなりになられた教員および職員40名のお名前を拝読させていただき、全員で感謝の黙とうを捧げた。また、農学部の現在の活発な研究活動についてお話しされた畑学長のご挨拶、亡くなられた世耕政隆総長の農学部への思い入れについてお話しされた村上会長のご挨拶はとくに印象的であった。



近畿大学農学部緑友会会長
村上 哲男



近畿大学校友会会長
亀岡 弘



近畿大学学長
畑 博行



物故者黙とう



(司会) 近畿大学農学部教授 寺下 隆夫





近畿大学理事・教授 熊井 英水



(座長) 近畿大学農学部教授 河村 幸雄

式典に引き続き熊井英水近畿大学理事・教授による「クロマグロの完全養殖への挑戦」と題した記念講演会があり、完全養殖の完成に至ったご苦労話をお伺いした。

講演会



近畿大学水産研究所の技が可能にした幻の味！！

～アーマリン近大の『本くえ鍋セット』～

“最高級魚『くえ』をお手軽に食卓へ”
期間限定にて好評発売中！！

〒649-2211
和歌山県西牟婁郡白浜町1番地の5
TEL：0739-42-4116
FAX：0739-42-4806
E-mail：info@armarine.co.jp
URL：http://www.armarine.co.jp



祝賀会



元近畿大学農学部長
竹内 史郎



近畿大学理事・教授
熊井 英水



近畿大学副学長・理事
宗像 恵



参議院議員・近畿大学副理事長
世耕 弘成



近畿大学農学部長
駒井功一郎



近畿大学農学部長補佐
宇都宮直樹



大阪講談協会
旭堂 南陵



北海道日本ハムファイターズ社長
藤井 潤一



前近畿大学農学部長
杉本 毅



元近畿大学農学部長
光永 俊郎

祝賀会は午後5時から開催されたが、農学部長の開宴のご挨拶にはじまり、ご来賓の祝辞を頂戴した。祝辞は宗像、恵近畿大学副学長・理事、熊井英水理事・元水産研究所長、歴代農学部長の竹内史郎先生、光永俊郎先生にご挨拶を頂き、杉本 毅元農学部長の乾杯のご発声で開演された。この祝賀パーティーには卒業

生253名、世耕参議院議員（近畿大学副理事長）をはじめご招待申し上げた来賓88名、現在勤務している教員・職員100名の441名がご参加され、盛大に行われた。祝賀会ではマグロの解体ショウをはじめ、卒業生代表で藤井純一現北海道日本ハムファイターズ社長、旭堂南陵大阪講談協会会長にご挨拶を頂戴した。パーティーは午後8時前まで続き、宇都宮農学部長補佐の謝辞で閉会した。農学部50周年記念式典には実に延べ

1023名のご出席を頂いたことになる。ご出席下さった方々へのお礼と、ご支援を賜った近畿大学本部および農学部緑友会に厚くお礼申し上げたい。また、卒業生の一人として、50周年という記念すべき節目に農学部勤務させていだいていただいた自身の幸運にも感謝したい。さらに、創設100周年に向け、農学部の更なる発展を祈念する次第です。



第6回緑友会総会



近畿大学農学部緑友会会長
村上 哲男



近畿大学農学部長
駒井功一郎

緑友会第6回総会は、平成20年5月25日(日)14時からシェラトン都ホテル大阪志摩の間で学生支援課係長西川清一の司会で開催された。はじめに村上哲男(昭和40年度農芸化学科卒)会長から挨拶があり、農学部創設50周年事業に合わせて、1年前倒しで総会を開催したこと、緑友会の活性化のために終身会費納入のお願いや新入生に緑友会の存在認識を高めるために各部会で新入生歓迎会を行い存在理由の説明を行ったこと、さらに、緑友会の情報をホームページ等で紹介する準備を行っていることや緑友会会報の内容を充実させたことで卒業生からも好評を得ていること等の紹介があった。

続いて、農学部学部長の駒井功一郎(昭和39年度農芸化学科卒)教授から挨拶があり、緑友会総会終了後に農学部創立50周年記念式典が開催されること、近畿大学において21世紀教育改革が進行しており、その中でも農学部が順調であることの報告がなされた。

引き続き、議長団選出ならびに書記の委任を行った。会則に従い村上会長が議長に、副議長に山中庸士朗氏(昭和61年度食品栄養学科卒)が推挙され満場一致で選出された。また、書記に田茂井政宏氏(平成5年度食品栄養学科卒)と吉岡佐知子氏(昭和59年度農芸化学科卒)が推挙され満場一致で選出された。総会に出席された緑友会会員は出席者数104名、委任状数1453名で合計1557名であった。本来であれば定員確認を行い、会の成立を行っていたが、昨今の卒業生増員の諸事情などから本総会より「総会の出席者をもって」会の成立を宣言することで村上会長から説明があり、満場一致で承認された。その後、議長団により以下の議事が進められた。

第1号議案「平成18年度、平成19年度 事業報告」。高谷政広(昭和45年度農芸化学科卒)庶務幹事より配布資料を参考に説明が行われ、満場一致で承認された。第2号議案「平成18年度、平成19年度 決算報告」。吉川賢太郎(昭和44年度食品栄養学科卒)会計幹事から配布資料を参考に報告され、満場一致で承認された。第3号議案「平成18年度、平成19年度 会計監査報告」。武田徹(昭和63年度食品栄養学科卒)監事より適切に処理されているとの報告が行われ承認された。第4・5号議案「平成20年度、平成22年度 事業計画案」および「平成20年度、平成22年度 予算案」。谷哲弥(平成8年度農芸化学科卒)庶務幹事および松田克礼(昭和58年度農芸化学科卒)会計幹事からそれぞれ提案され、満場一致で承認された。第6号議案「緑友会会則改正」。村上議長より議長選出の際に説明された会則第7章、第22条の総会成立に関する改正案が提案された。特に疑義もなく提案どおり会則の一部改正が承認された。第7号議案「部会長の紹介」。村上会長より各学科の学生・教職員部会長が紹介された。農業生産科学科白楊会・豊田秀吉先生、水産学科耕水会・太田博巳先生、応用生命化学科朝陽会・寺下隆夫先生、食品栄養学科食彩会・村上哲男先生、環境管理学科青山会・櫻谷保之先生、バイオサイエンス学科A B i S会・深溝慶先生の各先生である。最後に議長団が解散された。

総会は、終始厳粛な雰囲気のもと進行し、会員の方々のご協力により学生支援課西川氏の宣言をもって無事閉会した。



近畿大学農学部緑友会第六回総会 総会次第	
一 開会の辞	
一 会長挨拶	
一 農学部学部長挨拶	
一 議長団選出	
一 議案	
・ 事業報告	平成十八、十九年度
・ 決算報告	平成十八、十九年度
・ 会計監査報告	
・ 事業計画案	平成二十、二十一年度
・ 予算案	平成二十、二十一年度
・ 会則改正	
・ 部会長の紹介	
一 閉会の辞	



平成19年度近畿大学農学部緑友会事業報告		
月 日	項 目	場 所
4. 25	運営委員会	第1会議室
6. 2	幹事会	第1会議室
	1) 平成18年度事業報告について	
	2) 平成18年度決算報告について	
	3) 会報発行について	
	4) 平成19年度事業計画(案)について	
	5) 平成19年度予算(案)について	
	6) その他	
6. 22	終身会費納付書発送(612通)	
6. 26	第1回会報編集委員会	第1会議室
9. 4	在学生名簿調査完了	
9. 7	終身会費納付書2回目発送(299通)	
9. 20	第2回会報編集委員会	第1会議室
12. 29	会報第12号会員へ発送	
平成20年		
1. 20	終身会費納付書3回目発送(152通)	第2会議室
3. 7	委員会	D会議室
3. 12	運営委員会	

平成19年度近畿大学農学部緑友会(卒業者部会)決算 (単位:円)	
収入の部	支出の部
前年度繰越金 3,578,995	郵便費 1,257,533
終身会費(前年繰越2名分) 20,000	印刷複写費 1,939,148
終身会費 5,150,000	会議会合費 66,729
会報印刷・郵送代の負担金 284,300	人件費 1,390,573
(各学生会より在学生分)	雑費 1,268,954
会報第12号会報広告掲載料 40,000	
利 息 6,175	
	支出の部計 5,922,937
	次年度繰越金 3,156,533
合 計 9,079,470	合 計 9,079,470
会計幹事 吉川賢太郎 会計幹事 松田 克礼 上記のとおり、監査いたしました結果適正であります。 平成20年3月6日	
	監 事 小林 徹 監 事 武田 徹

平成20年度近畿大学農学部緑友会事業計画(案)		
月	項 目	場 所
4	幹事会の開催	第1会議室
	総会の開催	
5	1) 平成18年度～19年度事業報告・決算報告 2) 平成20年度以降の事業計画(案)・予算(案) 3) その他	シェラトン 都ホテル大阪
6	平成20年度卒業予定者に終身会費納付書発送(1回目)	
	第1回会報編集委員会	第1会議室
	在学生名簿調査完了	
9	終身会費未納者に納付書発送(2回目)	
	第2回会報編集委員会	第1会議室
12	会報を会員へ発送	
1	終身会費未納者に納付書発送(3回目)	
2	終身会費未納者に6学科に通知	
3	緑友会委員会・運営委員会開催	第1会議室

卒業生だより & 職場紹介

卒業生だより

理想の教員を目指して

農学科(平成16年度卒)

朝倉 淳

皆さんこんにちは。私は現在、大阪府立北淀高等学校で理科の教師をしています。教師という仕事は想像していたよりも遥かに多忙で、毎日が嵐のように過ぎ去っています。今は3年生の担任ということもあり、毎日進路指導に追われています。

本校で指導の主眼に置いているのが「自尊感情の育成」です。わかりやすく言えば「自分のもつ『個性』を大切にする精神を養う。」ということです。けれど、私が普段から心にかけていることで、学生の皆さんにも言いたいことは「個性」決して変わらないもの」だと勘違いして欲しくないということです。私は大学で生物学をより深く学ぶうちに、「生物ってすごいなあ!!」と感じるようになり、毎日驚きの連続であると同時に、漠然と「この感動をより若い世代に伝えたい。」と考えるようになり、その思いは学年

が上がることに強くなり、3年生のときには真剣に理科の教師を目指す決意をしました。けれども当時の私は引込み思案で、人前で話をするなんてもっての他でした。私が教師をするためには、私がそれまで持っていた、自分の「個性」だと思

い込んでいたものを180度変える必要があったのです。それから話し方を一から勉強し直し、表情や身振り手振りを鏡の前で練習し、人前で話すプロとして生きていくための努力をしました。

教師になった今でも、より楽しい授業、より適切な指導を目指して日々自分を変えることに挑戦し続けています。今では生徒から「先生っておもしろい!生物の授業好きやで!!」と言ってもらえるようになり、個性だと思

い込んでいたものを180度変える必要があったのです。それから話し方を一から勉強し直し、表情や身振り手振りを鏡の前で練習し、人前で話すプロとして生きていくための努力をしました。

教師になった今でも、より楽しい授業、より適切な指導を目指して日々自分を変えることに挑戦し続けています。今では生徒から「先生っておもしろい!生物の授業好きやで!!」と言ってもらえるようになり、個性だと思

い込んでいたものを180度変える必要があったのです。それから話し方を一から勉強し直し、表情や身振り手振りを鏡の前で練習し、人前で話すプロとして生きていくための努力をしました。

水環境を守って一年

水産学科(平成18年度卒)

谷田 昌平

私は平成19年に農学部水産学科水族環境学研究室を卒業した後、東洋メンテナンス株式会社に入社し、今年で2年目を迎えています。私の勤務す

る東洋メンテナンスは、都市機能に構成する上下水道施設、道路の維持管理を軸に、アスベスト分析、工事、研究開発を行う総合メンテナンス企業です。

私は下水道施設で水質分析の仕事に携わっています。下水道施設では、家庭から出る生活排水はもちろん、工事排水等も処理の対象としており、それらの汚れた水を施設内で河川に放流しても影響の無い水質になるように処理しています。河川に放流する水の水質は法律でも規制されています。水質分析の仕事はそれらの基準を満たしているかを検査する仕事です。

雨天時には雨水も流入してきます。その際は処理水質が悪化しやすくなるので、運転操作を工夫して、水質を良好な状態に維持しています。な

い込んでいたものを180度変える必要があったのです。それから話し方を一から勉強し直し、表情や身振り手振りを鏡の前で練習し、人前で話すプロとして生きていくための努力をしました。

教師になった今でも、より楽しい授業、より適切な指導を目指して日々自分を変えることに挑戦し続けています。今では生徒から「先生っておもしろい!生物の授業好きやで!!」と言ってもらえるようになり、個性だと思

い込んでいたものを180度変える必要があったのです。それから話し方を一から勉強し直し、表情や身振り手振りを鏡の前で練習し、人前で話すプロとして生きていくための努力をしました。

い込んでいたものを180度変える必要があったのです。それから話し方を一から勉強し直し、表情や身振り手振りを鏡の前で練習し、人前で話すプロとして生きていくための努力をしました。

南極海の調査捕鯨

水産学科(平成16年度卒)

伊藤 博之

平成17年に長くお世話に

なつた大学を卒業し、その後は環境関係の仕事に就きたいと思い就職活動をしつつ、派遣やアルバイトをして生活していました。派遣では就職希望の環境コンサルタント会社でデータ整理、報告書作成、生物調査などを行い、アルバイトでは防水、大工、建設現場などを飛び回りました。色々活動はしていたのですが、資格もない人間がやる仕事としては中々難しい時期でした。ことごとく不合格をもらい、半ば諦めていました。そんな時に転職がきました。南極海の調査捕鯨に行かないか?と派遣元から連絡が来たのです。耳を疑いました。確かに南に住みたい!海が好きだ!と思いはありました、

が南極海って・・・もちろん行ってきました。初めての長距離航海、大型哺乳類の調査、また国際社会での反感などを感じての仕事に興奮と感激を受けながら出航準備をし、南へ一片片道約1ヶ月の航海へ。今まで自分の考えてきたessへの思い、しがらみ等々が背中から離れていく感じがしました。現場で初めて見る鯨に驚きを隠せなく、戸惑いしました。調査は約3ヶ月行予定でしたが、妨害や火災事故が起き早めの帰国でした。その後また就職活動をしました。海を見ていてやはり、南国に住みたい!海が好きだ!という思いが忘れられず、現在は伊豆七島南部にある八丈島で漁師をしています。主にキンメダイやカツオを捕っています、シケの時は釣りやシュノーケリングをしています。学生時代に学んだ事を思い出しながら作業していると、頭で覚えてきたことが身体にすんなりと沁み込んでくる感じがします。現在は作業効率を考え、知り合いの漁師仲間にとのよう作業をしているの



昔を訪ねて

農芸化学科(平成9年度卒)

浦川 雅満

早いもので卒業して既に8年。私は食品開発の仕事に就いております。また、在学中は想像もしていませんでした。調査は約3ヶ月行予定でしたが、妨害や火災事故が起き早めの帰国でした。その後また就職活動をしました。海を見ていてやはり、南国に住みたい!海が好きだ!という思いが忘れられず、現在は伊豆七島南部にある八丈島で漁師をしています。主にキンメダイやカツオを捕っています、シケの時は釣りやシュノーケリングをしています。学生時代に学んだ事を思い出しながら作業していると、頭で覚えてきたことが身体にすんなりと沁み込んでくる感じがします。現在は作業効率を考え、知り合いの漁師仲間にとのよう作業をしているの

の創業とのこと。この直営店にて真昼間から出来たての清酒と地ビールを1人で乾杯。色々な意味で子供の頃では決して理解が出来ない旅行の醍醐味。その後、大震災で崩壊した元実家(の跡地)や母校、駄菓子屋、秘密基地、散々悪さをしたお地蔵さんの祠をお参りし、充実したミニ旅行は終わりを告げました。我家にはまだ子供が居りますが、今度は家族でまた一緒に散歩してみたいと思えました。皆様も桜の季節になりましたら、ご自身のルーツを巡る旅にフラリと出かけられては如何でしょうか。

公衆栄養の現場から

食品栄養学科(平成18年度卒)

伊坂 巴月

私の勤める奈良市保健所へご紹介いたします。

奈良市保健所は、保健総務課・生活衛生課・保健予防課・健康増進課の4つの課からなっており、奈良市の公衆衛生をなっています。

所長をはじめとする医師、保健師、獣医師、薬剤師などの専門職や事務職の中、私たちが管理栄養士たちが共に働いているのです。

管理栄養士が所属するのは、保健総務課と健康増進課。

保健総務課の主な仕事は、特定給食施設等の巡回、国民健康・栄養調査、健康食品の表示に関すること、最近では奈良市食育推進計画がこの8月に策定されたので、食育についての推進なども行っています。

健康増進課の主な仕事は、母子保健に関すること、成人のポピュレーションアプローチやハイリスクアプローチなど。

私は保健総務課に所属しています。仕事内容が多岐に渡り日々、勉強です。

今年、新しい仲間も増えて、管理栄養士が5名となりました。

それぞれのカラーを出して、また団結して、いろんな職種のかたとともに奈良市保健所を盛り上げて、奈良市の公衆衛生の発展に力を注いでいけたらと思っています。

アメリカの灼熱砂漠より

国際資源管理学科(平成18年度卒)

奥井 悠

私は現在アメリカのカリフォルニア州南部に位置します。[desert]という夏場は日中50℃にも達する灼熱砂漠の町で農業研修生として、メキシカンワーカー達に対して監督のような役割を担いながら働いています。このような道を

選んだのは学生時代に様々な教授とのご縁にも恵まれ、「発展途上国で自分に何か手伝える事はないだろうか」と考えた結果で、農業研修生として様々なことを学び、たくさんさんのことを得ようと考えたのです。

ここでの仕事は、ワーカーへの指示や品質管理、ボスへの報告などが主な仕事で、自分に足りなかったことや日本にいた頃には気付かなかった大切な事など知ることが出来、日々たくさんさんのことを学ばせてもらっています。予想外だったのは、ワーカーは100%そして町全体でも99%はメキシカンで、スペイン語だけで生活が成り立っていること。そういつた環境だとメキシカン達も別にアメリカだからといって英語を覚える気(必要)もなく、仕事の指示も全てスペイン語。アメリカというよりむしろメキシコ。でも「スペイン語を話せないと生きていけない・仕事にならない」と追い込まれると人間は凄いもので。現在は英語よりスペイン語のほうがスラスラ

と出てくるようになったくらいです。仕事で監督として彼らと接する時に大切なことは、指示を出す側として、彼らと同等かそれ以上に仕事をこなせ、知っていないければいけません。そのため最初は自分の仕事をこなしながらもなるべく時間を作って彼らの仕事を手伝い、少しでも早く彼らと同じかそれ以上に仕事が出来るようにと努力しました。指示を出し、注意する時も異常に高い彼らのプライドに配慮する必要があります。少しでも周りに聞こえるような声で注意をするようなことがあれば彼らは「恥をかかれた」としか捉えず、注意したことなどまったく聞いていないし、言い方一つで食いついてきます。言い訳もたくさんします。これからの予定は、9月からの約2ヶ月半は近畿大学農学部と姉妹校でもあるカリフォルニア大学デービス校に農業の勉強をしに行くことになっています。その2ヶ月半のデービス滞在中に様々な情報を集め、出来れば院へ行ってさらに深く知識を掘り下げていきたいと思っています。この先もたくさんさんの課題や壁にぶつかるとはありますが、タイなどでお会った子供たちの笑顔に力にこれからはもうひるみません。このときに、大切なことは、チームメンバーの全員がスキルを上げ、全員が同じレベルの中で議論し、企画を組み、プレゼンし、最高の顧客満足を引き出すことだと思っています。私は、営業の責任者として営業マンを引っ張っていく立場にありますが、仲間の一一人をしっかりと見守り、いける管理職をめざして今後も自分に厳しく、前向きに取り組んでいきます。



り、この管理責任者として多忙な日々をおくりました。その後今年の6月に業務用の営業の責任者として異動になり、今はユーザーとの関係作りや、企画作成に取り組んでいます。今までの営業時代に作り上げた人脈が年を重ねるごとに自分のために役にたっていることを実感するようになりました。商品の販売と利潤の追求が企業にとって大切ではありますが、そのためには人とのつながりが非常に大切で、ユーザーとどのように関わっていくのが最大のポイントとなります。

企業と企業を結びつけるのは営業マンの自覚と知識と信頼の上に成り立っているのです。困難な部分も多々ありますが、やりがいもあります。以前の営業マンは個人プレイが多かったように思いますが、今はチームプレイで動いています。このときに、大切なことは、チームメンバーの全員がスキルを上げ、全員が同じレベルの中で議論し、企画を組み、プレゼンし、最高の顧客満足を引き出すことだと思っています。私は、営業の責任者として営業マンを引っ張っていく立場にありますが、仲間の一一人をしっかりと見守り、いける管理職をめざして今後も自分に厳しく、前向きに取り組んでいきます。

私は昭和60年4月から現在まで調味料メーカーに勤務しています。23年の社歴のなかで、ほとんどが営業で特に業務用の営業に携わってきました。1年前に工場に転動になり、製造にかかわりました。我社はHACCPを導入してお

社会人としての歩みと学び

近畿大学農学部農芸化学科(平成18年度卒)

生物化学研究室(昭和69年度卒)

葛城 肅央

私は昭和60年4月から現在まで調味料メーカーに勤務しています。23年の社歴のなかで、ほとんどが営業で特に業務用の営業に携わってきました。1年前に工場に転動になり、製造にかかわりました。我社はHACCPを導入してお

在学生だより

近畿大学農学部での4年間

農業生産科学科四年

小浜 有里

大学生活は充実したものであった。私ははつきりところ断言出来る。

まずは、勉学。

森林に囲まれ、豊かな自然の中にあるキャンパスには、誘惑や喧騒は少ない。恐らくはここに在籍する多くの学生が、それを感じていたと思う。

勿論、私もその一人である。春には、桜並木が美しく道を飾り、夏は蝉の声と共に学んだ。

秋には見事な紅葉や虫の鳴き声が響き、冬は刺すような寒さの中、時にはキャンパス全体を雪が彩った。農学と言う、自然と共にある学問を学ぶ中で、常に自然と共にあった。

た。

また、農業生産科学科に在籍している私には収穫の喜びもある。

普段何気なく食べていた野菜

これらや、ここには書ききれない沢山のものが得られたのは、やはりこの近畿大学農学部で4年間を過ごしたからだと言えると思う。

学生生活を振り返って

水産学科四年生

金森 渉

中学・高校生の頃は、理科系の人が少なかったせい趣味が共通の友人はともな少なかったのですが、大学に入ってから興味や考え方が共通している多くの友人ができました。その中で専門的な知識をより深めることが出来たり、視野を広げることができました。

また、全国から人が集まるので考え方や文化の違いから多くのことを吸収することができました。新しいことに挑戦したりと多くの友人を通じて大学生活では趣味の幅を広げることが出来たので、楽しく過ごせる時間が増えたと思います。大学生活で特に良かったと思うことは基礎実験や卒業研究等を通じて研究室の先生や企業の方々や親しくなれ、同年代の中では得られない考え方や物の見方を学べたことです。



大学では勉強の時間以外に自分が考えて使う時間が多くあったので、私は学外で和太鼓チームに所属したり、友人と遊ぶことに打ち込むことが出来ました。社会人になってからは趣味に多くの時間を費やせることは難しくなると思いますが、学生生活中は学内でも学外でも充実した時間を過ごすことができました。今は最後の一年の中で卒業



四年間の集大成

食品栄養学科四年

小出 勇樹

入学当初は、今までに経験したことが無いことばかりで戸惑っていました。高校の時と違い、決められた制服も無く、自分で授業を選びます。日によつては、同じクラスメイトであっても、受講する講義が違うと会えないこともありました。授業内容も当然専門的となり、どんな難しくなっていたけれどもその分、興味や沸きやりの出ましました。実験もより本格的になりそれに伴って、失敗も増えましたが「何故失敗をしたのか」「どのようにすれば良いのか」など自ら考えるようになりました。

今からちょうど4年前の夏。幼い頃から生き物が好きで、家や学校で色んな生物を飼育していたことに始まり、大学進学も生物に触れる勉強がしたいと思ったのが志望動機であった。それから早4年の月日が経ち、今は研究室に所属され、この研究室で卒業研究に取り組みこととなった。入学当初は想像以上に専門的な勉強に戸惑ったが、近畿大学農学部でしか勉強できない内容であり、今となって振り返ってみるととても充実した4年間だったように思う。一言に大学生活を言うとな、勉強が一番大切な内容であることは言うまでもないが、大学生活で得た物として幅広い人脈が思い浮かぶ。同好会に入り、学科や学年の垣根を越え同じスポーツを志す同志達や先輩方との交流。3年生になり分属された研究室においては、近しい学問を志す同級生との関わりがあった。研究内容の意見交換はもちろんのことだが、日頃の悩みや就職活動についての情報交換や相談をし、お互いに励まし合うなど、かけがえのない仲間を得ることが出来た。就職活動では、他大学の方や人事の方など大学内では知り合うことが出来ない貴重な出会いがあった。OB・OGの方々とお話する機会も多く、受けた会社の人事の方がOBさんで、励ましの言葉を頂き、面接が和んだりもした。この就職活動の期間は、様々な人の話を聞き、新しい価値観や考え方を吸収したり、入学時には見えなかった自分の将来の像について深く考え、舵を取るという人生において重要な時期を過ごしたように思う。様々な人と関わり成長してきた4年間の糧に、社会人という新たなステージで頑張っていきたいと思う。

4年生になって思うこと

バイオサイエンス学科
バイオマテリアル研究室

福田 達也

4年生になった今年、実験・研究に追われる日々にも慣れ、長い大学生活も残り半年となりました。1〜3年生の自由な時間が多い生活とは一変し、朝から晩まで実験に追われる日々が続いています。正直最初の頃はとても辛く体力的にも精神的にも余裕がありませんでした。残り1年間やっていける自信は全く不安でいっぱいでした。さらに私は学部改組に伴って新設されたバイオサイエンス学科の初めての学生であるために、手探りの状況で迷ってしまいうことも多々ありました。しかし、だんだんと研究への理解が深まるにつれ実験への興味が湧き、同じ時間を過ごした仲間との親睦が深まるにつれ、毎日研究室に行くことが楽しくなりました。実験が思うように進まず、つまずくことも

ありますが、そんなときは先生方や院生の先輩達が嫌な顔一つせず優しく教えてくれます。また実験以外の時間も月2回フットサルを一緒にしたり、お酒を飲み交わすなどとても充実した生活を送っています。そんな中、私自身は今の実験をもっと本格的に研究したいと思い、この研究室の大学院に行くことに決めました。先日は、先生方とともに新潟で行われた学会に参加しました。院生の先輩の発表に感銘を受けました。私も、先輩達のような立派な院生になれるようにこれからしっかりと頑張っていきたいです。

残りの大学生活、悔いの残らないようにしっかりと実験し、充実した楽しい日々を送りたいと思っています。

農学部での学生生活

応用生命科学科二回

吉村 達也

私が近畿大学に入学して早1年半が経ちました。

1年の頃は、授業の難しさとスピードについて行くのに必死であつたという間にテストがやってきてあつたあつたばかりでした。だから最初の1年目は本当にすぐに終わってしまった。2年目は何とかペースを掴み、勉強方法も習得できたので、授業にも集中でき、更にテストにも力が入るようになりました。

この1年半の学生生活の中で印象に残っている授業はやはり学生実験だと思っています。同僚の友人、院生、先生な

入学したての頃は正直なところ、どのように大学生活を送れば自分の将来に役立つのか全く分かりませんでした。しかし、近畿大学が用意してくれた様々なカリキュラムに目を通してみると興味があるものがいくつも見つけれ、今では自分の進路を決定することができました。

入学したての頃は正直なところ、どのように大学生活を送れば自分の将来に役立つのか全く分かりませんでした。しかし、近畿大学が用意してくれた様々なカリキュラムに目を通してみると興味があるものがいくつも見つけれ、今では自分の進路を決定することができました。

大学生活を省みて

環境管理学科四年

多田 幸加

近畿大学入学を志したのは

入学したての頃は正直なところ、どのように大学生活を送れば自分の将来に役立つのか全く分かりませんでした。しかし、近畿大学が用意してくれた様々なカリキュラムに目を通してみると興味があるものがいくつも見つけれ、今では自分の進路を決定することができました。



同好会だより

釣同好会釣友会

顧問 久保 喜計
会長 内藤 翔

釣同好会釣友会は男子70名、女子27名の計97名で2回生を中心に活動しています。海、池、川、フィールドを問わず釣り全般を主として活動しており、月一回の釣行では近畿の各フィールドを、合宿では遠征し多彩な釣りを展開しています。また、年間行事としてはバーベキューやボードなどにも行き、釣りだけでなく幅広く活動しています。

今年の夏は白浜へ行き、より会員の親睦を深めることができました。

対外的には、学生釣り大会、シイラ大会などにも積極的に参加しています。他学校の人達と競うため、交流も広がり、自分達のスキルアップや普段とは違った釣りも経験できます。

また農学部祭では自分たちで釣ったアオリイカを屋台で販売し、さらに展示では珍しい魚も数多く展示しています。年に一度の展示であるので会員全員が協力し、前年度以上のものを作り上げようと毎年力を入れ展示会作りに励んでいます。

年ごとにカラーは違いますが、よい伝統は守りつつ、新しいことにも挑戦し、これからも一層活気あふれる釣友会をつくっていききたいと思います。



空手道同好会

顧問 塚正 泰之
会長 星野 陽介

空手道同好会は2008年度現在、男子32名、女子10名の計42名で活動しています。流派はU.S.高妻会に属し、フルコンタクト空手がメインの練習ですが、ほかにも武器術や関節技等も幅広く練習しています。

また今年は毎年恒例の、長野県の斑尾高原での合宿も、地震等の被害もなかったため無事開催することができました。今年は8月23日から8月27日までの間、高妻容一先生率いる東海大学の学生約30名と、空手道同好会約20名とが合同で合宿を行いました。東海大学は、希望者は空手の練習もしますが、主にこちらのメンタル面をサポートし、最終日に行われる昇級・昇段審査で実力が出せるように協力することを目的としています。特に、合宿も審査も初めての1回生にとって心強い見方となったのではないかと思います。

他流派で開催される大会にも参加しており、フルコンタクト空手だけでなく関節技や顔面への突きもありの総合格闘技の大会にも積極的に参加するメンバーもあり、活発に活動しております。



写真同好会

顧問 榎 彰徳
会長 富永 祐希

写真同好会は、写真ならジャンルを問わずどんどん楽しもうというスタンスで活動している同好会です。部員数は48人で賑やかにやっています。活動の内容としては毎年春と秋に教室を借り切って本格的な展示会を開催しています。特に秋の展示会は飛鳥祭の催しの一つとして行っていますので、一般の方々に自分たちの作品をご鑑賞いただく場でもあり、ことさら作品づくりには部員一同真剣に取り組んでいます。また展示会の前には数回の撮影会も行っています。撮影会の場所には奈良や京都などの歴史が感じられる場所が多いです。飛鳥祭には写真同好会として一回生が屋台も出しており、様々な領域で写真同好会が活動していることがお分かりいただけるかと思います。また、夏には合宿も行っており、部員同士の学年を超えたふれ合いの場となっています。



吹奏楽同好会

顧問 宇都宮直樹
会長 大西 貴也

我々吹奏楽同好会は発足して14年目となり、週2回の活動を行っています。年2回春夏に合宿を行い、4月にスプリングコンサート、前後期に1度ずつ定期演奏会を開催しています。現在の会員数は1回生10名、2回生23名、3回生15名、4回生19名の計67名で、一人ひとりが演奏技術を向上すべく一生懸命練習に励んでいます。

我々吹奏楽同好会では毎年1学年に1人ずつ指揮者を会員の中から選び、学生指揮者として活躍しています。

文化祭では有志バンドを組んでの出演、屋台出店、かくし芸、フィナーレの演奏などを行っています。

同好会の今年のスローガンは「ATPに声を出す」です。Aとは「明るく」、Tとは「楽しく」、Pとは「パワフル」で、このスローガンに基づき、積極的に練習やイベントに参加し、楽しく活動しています。



メダカの学校同好会

顧問 細谷 和海
会長 牛田 博

童謡に歌われるほど、日本人にとって身近な存在であったはずのメダカですが、今やその姿を見られる場所は限られてしまい、「絶滅のおそれ」まで囁かれるようになりました。

それというのも、メダカという生き物は旧き良き日本の農業のあり方から生ずる、里山環境に適応した生き物であり、近年そういった景観が失われていることが原因と考えられています。

そんな背景を踏まえた私たち同好会は、60人近い会員を擁して、近畿圏内の様々な地域に生息するメダカを繁殖し、生息地ごとに固有の遺伝形質を保存する「系統保存」や、メダカの生存に適するという里山環境を理解するため、農学部の主催する「里山修復プロジェクト」に参加、そして、様々な活動から学んだ情報を外部へ発信するための展示会の開催、およびホームページの運営など、多岐にわたる活動を行なっています。今まさに注目されている分野とともに、これから大きくなっていくメダカの学校にご期待下さい。



テニス同好会

顧問 寺下 隆夫
会長 小林伸一郎

私達テニス同好会は、毎週月曜から金曜の16時から18時を主な活動時間とし、学校内のテニスコートでテニスを楽しんでいます。会員数が100名をこえていること、コートの面数が少ないこともあり、この時間の練習では満足できず20時ごろまで練習をする会員も少なくありません。テニス同好会に所属するのはテニスの経験者ばかりではなく、入会して初めてラケットを手にする人もいますが、経験者や先輩の指導によりどんどん上達していきます。

試合にも同好会全体で積極的に出場しており、近畿大学内のテニスサークルで行う大会や、関西圏の大学のテニスサークルが出場する大会など、多くの大会に参加しています。また他のサークルとの交流を深めるための練習試合なども行います。

毎年休暇中には会員同士の親睦を深め、日頃の練習の成果を発揮するために、夏冬春の3回合宿を行っています。合宿以外でも月に1回運動会やBBQ、みかん狩りなどのイベントを企画し、会員全体が楽しく盛り上げられる同好会を作っています。



バレーボール同好会

顧問 板倉 修司
会長 深江 太一

私達バレーボール同好会は、毎週二回、火・木曜日に活動しており、現在、一回生25人、二回生25人、三回生31人の計81人が所属しています。

未経験者も多いですが、少ない練習時間で経験者を中心に会員同士で教えあい、楽しみながら上達を目指しています。

夏合宿では、4泊5日で高知県へ行き、朝から夕方までと長い練習時間を確保できたので、普段より効果的な練習ができ、学年別や1, 2, 3回生混合での試合時間も多くなることができました。練習以外にも、花火や肝試し、ビーチバレー、宴会等を企画し楽しい思い出をたくさん作ることができました。

夏合宿以外にも、新入生歓迎会やOB・OG会、バレーボール大会、冬合宿等多くの行事を企画し、楽しく活気のある同好会を作っています。

今後もバレーボールの上達と会員同士の絆を深め合っていきたいと思っています。



美術同好会

顧問 芦田 馨
会長 川本乃理子

私達美術同好会A.C.は、2008年度現在4回生2人、3回生16人、2回生14人、1回生9人の総勢41人で活動しています。同好会名である美術同好会A.C.の『A.C.』は、『Art Club』ではなく『Artist Company』の頭文字で、部員それぞれの特性を尊重した自由な美術をモットーにしています。定期的な活動はありませんが、夏季と秋季の年2回の展示会を成功させることを目標に日々準備をしています。例年展示会の内容は、共同作品と個人作品の2本柱です。今年の夏季展示会の共同作品は、『夏の涼』をテーマにベニヤ板2枚分の大きな絵を1ヶ月程で描き上げました。また、個人作品の方は、コンテナの掃除をして小さなアトリエを作ったり、2回生が週に1回お絵かき教室を開くなど、賑やかな制作となりました。

今後は、共同作品でのタッチをある程度統一することや、立体作品に取り組むこと、及び各部員の得意な画材・画法を共有することを目指し、意欲的に取り組みたいですと思っています。



大学院生だより

大学院進学で変化したこと

農業生産科学専攻修士二年

井上 武

私は大学院に進学を希望する前は就職活動をしていました。しかし、実験を始め2ヶ月が経ったところ研究が1年で終わってしまうのがもったいないと思い、大学院に進学しました。

私はウコンという作物を研究しています。日本ではあまり栽培されていなかったのですが、一年に一度しか栽培できないので、病気や台風に注意しました。現在は施肥条件の違いが生育、収量、成分に及ぼす影響を調べています。土壌のC/N比やウコンのクロクミン含有量を分析しています。

大学院の授業も今までは「近

違うものでした。学部生ときは生徒の人数が多く、受身の授業になりがちでした。しかし、大学院の授業は自分

何かを調べ、レジュメを作成し発表するといった授業が多く、人前で発表する良い練習になりました。人に何かを伝えるときは、伝える内容についてよく理解していないと説明できないため、自分の勉強

にもなりました。研究室の後輩との交流も貴重な体験です。周囲の友人が一足先に就職したことによって、自分の職業観も変化しました。

学生生活も残すところ半年になりました。残り少ない学生生活を悔いの残らないように過ごしたいと思っています。そして、卒業するときには「近畿大学大学院で学生生活を過

ごしてよかった」と答えることができるようにがんばりたいと思います。

バイオメカニクスに出会って

水産専攻 漁業生産システム研究室
博士後期課程三年

田村 優美子

近畿大学に入学して大学・大学院を合わせて早9年目、今年で博士後期課程3年になりました。入学当初はこれほど長い間、在学するとは思って

オメカニクス（生体力学）という学問分野に出会い、現在に至ります。バイオメカニクスとは、生物の構造やその機能を力学的な視点から解明する科学のことです。「ヒラメは自分の体の形が持つ機能を利用し、コストパフォーマンスの高い遊泳を選択しているかもしれない」とこんな話を

現在もご指導いただいている高木准教授に聞かせていただき、ワクワクしたことを今でも覚えています。現在、私はバイオメカニクスを用いてクロマグロの遊泳能力を解明する研究を行っています。魚類の遊泳は今でも未解明となっ



進メカニズムもその一つです。大学院では、これらの謎に挑戦すべく奮闘し、充実した日々を送っています。なかなか結果が出なかったり自分の勉強不足を痛感したりめげそうになる時もありますが、親身に指導して下さる先生方、理解を示してくれる両親や学友に支えられながら、七転び八起きの毎日です。一人前の研究者になることは容易ではありませんが、これからは先生

方をはじめとする周囲の人々への感謝とともに科学すること、「ワクワクすること・感動すること」を忘れず、日々努力し研究に従事したいと思っています。

学生生活

応用生命化学専攻
博士後期課程一年 食品微生物工学研究室

吉岡 早香

自然と人との関係を学びたいと思い、近畿大学農学部を受験し、念願かなってここで勉強することができるようになりました。3年生までの間に生体や食品を通して様々な仕組みや原理など土台となる基礎的なことを学びました。最初は難しく全然理解できないことばかりでしたが、何

のためにこの講義を受けないといけないのか考えた時、人が健康で長生きするためにどうしたらよいか、について勉強しているのだと分かりまし

4年生で、研究室に所属され、ウイスキーの美白効果という研究テーマで研究することになりました。サプリメントや薬ではなく、普段から口にするもので体にいい影響がある食べ物もあります。ウイスキーにもそういった体にいい効果を示す成分が含まれ

私にははまった受動的なものであったのかというところに気が付き、自分の問題解決能力の低さを痛感しました。そこで、問題解決能力を向上させ自分の魅力を高めることを目標に大学院への進学を決意しました。研究室では胎児期・授乳期の栄養環境と成長後の生活習慣



私にははまった受動的なものであったのかというところに気が付き、自分の問題解決能力の低さを痛感しました。そこで、問題解決能力を向上させ自分の魅力を高めることを目標に大学院への進学を決意しました。研究室では胎児期・授乳期の栄養環境と成長後の生活習慣

私を変えた2年間

応用生命化学専攻 栄養機能学研究室
高瀬 涼子

私は平成19年に食品栄養学・科管理栄養士専攻を卒業しました。学部生の頃は栄養に関する知識や管理栄養士免許を取得するための勉強が中心でしたが、卒業研究では、研究員や大学院生に混じって研究を進めるにつれて、これまでに私がやってきた勉強がいかに

病発症について研究が行われており、私は胎児期に低栄養環境に暴露された胎児が成長後に、糖尿病を発症しやすいメカニズムについて臓腑の形態学的な変化や組織での糖の取り込み注目して研究を行っています。実験は試行錯誤の繰り返しで辛いこともありますが、村上哲男先生をはじめ研究室の先生や学生、大学院の友達に助けられ励まされてこまめなことができて、大変な時でも研究を投げ出したいと思うことはありませんでした。また、学会や研究会など発表する機会にも恵まれ、他大学の先生や企業の方々と交流の中からたくさんの刺激を受けました。私は研究を通して、物事の考え方や専門的な知識を身に付けることだけでなく、言葉遣いや礼儀作法など社会でのルールと人の繋がりの大切さを学ぶことができました。これから社会に出て現状に満足せず多くのことを学び成長できるよう頑張っていきたいと思っています。



水圏生態学研究室に所属する博士前期課程の1年です。とは言え、三十路を目前に迎えている年齢の持ち主でもあります。

実は、私はこの卒業生で、6年前に本学農学部水産学科を卒業しました。卒業してから、しばらくの間、高校教師という社会人として、教壇の上で鞭を執り、生徒と日々楽しい生活を過ごしていました。しかし、在学当時の研究を続けていきたいという研究を続けていきたいという考えが頭の片隅に留まらず、常に中心部を傍若無人に振る舞い続けていました。そこで、これから自分がどうなっていくかはわかりませんが（自己形成していくうえで、どうしていきたいかは考えてお

指し、ひいては水辺環境全体の保護施設について提言できるような研究をしていきたいと思っています。まだまだすることが山積みです。

毎日の研究室生活

バイオエクス研究科植物学・生体工学研究室
伊藤 大輔

研究漬けの毎日で日々が過ぎ、あっという間に大学院二年生の半ばです。現在、私は植物バイオサイエンスの知識および技術を駆使して、植物のストレス耐性に関わる遺伝子/タンパク質の機能解析を行っています。

そもそも私は、昔から環境問題や食糧問題に興味を持ち、これら問題をどうにか解決したいと考えていました。そして、出会ったのが、遺伝子組換え作物！私は、遺伝子組換え植物なら砂漠などの悪条件下でも育つ



ずだから、これで環境問題なんてすべて解決！と簡単に考えていました。

しかし、実際に研究に携わってみると、そこに辿り着くまでは長い年月と大変な努力が必要であると実感し、何度もうけそうになる自分がありました。

そんな時、いつも先生や先輩から声を掛けて頂き励まされ、そして同期や後輩の頑張る姿で自分も負けられないと自ら鼓舞して頑張り抜き、今の私があります。

そして今、冷静に考えると、これまでの研究の失敗の繰り返しの意味があり、着実に世界に誇れる研究成果が蓄積していると思えて言うことができます。事実、研究会などで他大学・研究機関の院生と話し合う機会が何度かあったのですが、まったく気後れすることなく、対等に（それ以上に！）お互いの研究成果を議論でき、私が思っていた以上に、我々の研究を評価していることも肌で感じました。

これからは私は、多くの仲間と共に残りの学生生活をより充実させたいと考えています。